

東又小学校

学校だより

令和2年 6月26日(金)

No. 22

東又小 校長 中越あかね

Tel : 0880-24-0006

ビオトープでトンボの勉強したよ

今年も例年のように、トンボ公園から、トンボと自然を考える会常任理事であり、トンボ生態写真家でもある杉村光俊さんと、ヤゴに詳しい野村彩恵さんが来てくださり、3・4年生にトンボのことをいろいろ教えてくださいました。

最初は1人1人が虫取り網を持ってトンボを捕まえました。子どもたちは興味をもって生き生きした眼差しで捕まえたトンボの種類を聞いたり、増やすための方法を習ったりしていました。でも、イトトンボは何匹もいたけど他のトンボがあまりいないことが分かりました。2月に来て頂いて勉強した時にはヤゴはかなりいたのに、今トンボがいらないのは何か原因があるのだとお習いました。その後は、水用の網に持ち替えて今度はヤゴの採集です。ヤゴはたくさんいて、性別を習ったり、どのトンボのヤゴかを習ったりしました。

最後に、捕まえたトンボとヤゴを元の住処に戻しました。これからもたくさんの種類のトンボが東又のビオトープに来てくれるような環境を作っていこうと確認したことでした。



ビオトープの池の環境が良く、水も澄んでいるし、水草がとても綺麗に咲いていて、トンボ公園よりも綺麗に咲いていると褒めて頂きました。保護者の方のご協力あってのことです。ありがとうございます。

本当に、今、綺麗に咲いています。休みの日などに子どもと一緒に遊びに来るのも楽しいかもしれませんね。



←
ジョッキンガ ピンクの水草

黄色の水草 →



トンボの来るビオトープにするには

黄色や青色のイトトンボが少し飛んでいましたが、ビオトープの中には他のトンボはあまり見られなくてちょっと残念でした。例えば近くの田んぼや草原で農薬を使ったことが影響しているとか、草丈が短くなりすぎたのも原因の一つかもしれないということでした。そこで、今後の環境整備で気をつけたら良いことを教えて頂きました。

1、草丈を短くしすぎない

草丈は短く刈ってあげると見た目は綺麗になるのですが、どうやらトンボには住みにくくなるようです。刈る方としては微妙だと思いますが、草丈を10cmくらい残して刈るとよいようです。

2、草を刈らない場所を残す

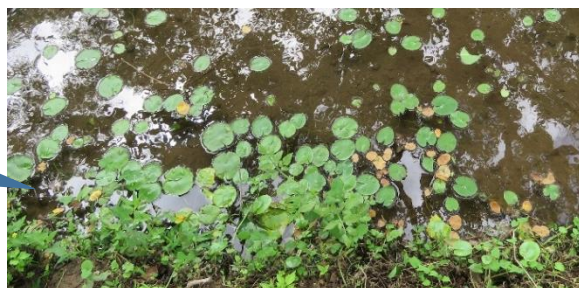
ビオトープの一部に、草が生えたままにしておく場所を作ってあげると良いこともお習いしました。背の高い草がないと住めないトンボがいるそうです。ビオトープの草丈が短いと、トンボはビオトープ以外に出て行ってしまい、ビオトープの中にはいなくなってしまいます。この日も、四角い池の向こうの広場（草を刈っていない場所）には何匹もいました。

刈らずに残しておいて欲しいエリアに目印をつけておくようにします。

3、水辺の草は少し残す

水辺の草は、少し水にかかるくらいに残すと良いそうです。大雨が降ったら水に浸かり、水が減ったら岸となるような環境があると、メダカなどの小魚が繁殖しやすいようです。

微妙ですが、このくらいの環境が、良いそうです。



久しぶりに保育所の先生に・・・

25日には、保育所の先生に、1年生の様子を見に来て頂きました。子どもたちはこの日を待っていました。算数で、今までと違うパターンの引き算をしました。今までは、キーワードになる「ちがいは」という言葉が入っていたのですが、この日の問題にはそれが入っていませんでした。そこで、これはなに算で計算をするのかを考えました。ペアで考えている時に、「たし算？ひき算？」キーワードがないので悩んで「かけ算？」「わり算？」という言葉も出てきてさんざん悩み、面白い授業でしたよ。でも考えながらひき算ということで落ち着きました（笑）「ちがいは」という言葉が入らなくてもひき算のことがあるんだねえということも勉強しました。頭をいっぱい使った1時間でした。休み時間に保育所の先生に抱っこしてもらって嬉しそうな人もいましたよ。

